

## 第2回

(2009.04.17)

## 学問・研究・文献・情報—研究活動の実情と図書館の役割—

古賀崇准教授(附属図書館研究開発室)

講義スタイル：パワーポイントによる講義 参加者数：95名

配布資料

- ・講義資料(A4冊子1冊)
- ・論文例：古賀崇「アメリカ連邦政府刊行物寄託図書館制度の電子化への過程とその背景」『日本図書館情報学会誌』46(3),2001,p.111-126.(A4冊子1冊)

### ■前回アンケートの質問回答

- ・司書課目と関係あるか？  
教育学部での司書課目の紹介・司書採用の話題・問題集回覧
- ・レポート作成とどれくらい関係するか  
レポートを書く前段階までの内容

### ■前回の復習

前回ネットに繋がらなかったため、WebcatPlusとKULINEの使い方を実演  
WebcatPlusでの連想検索の実演  
KULINEで「山本一郎」を検索→著者標目の確認→別著者リンクの利用

### ■講義内容

#### 大学図書館と研究活動

図書館資料を利用し、研究成果を図書館に戻す。利用者が提供者になるのが大学図書館の特徴  
鳥取県立図書館での「図書館で夢を実現しました大賞」の紹介

研究の手法とは：大まかに4つ

読解：古典文学・歴史資料etc.

調査：アンケート・インタビューetc.

実験：理系分野etc.

事例研究：特定事例研究・判例研究etc.

学問領域と研究手法：4つの手法が各学問分野にどのようにあてはめられていくか

文系（人文科学・社会科学）

理系（自然科学・工学・工業技術・医学・薬学）

いずれの手法を使うにしろ、研究は「文献の探索→読解」に始まる

2つの種類の資料を使い分ける

一次資料・二次資料(ex.OPAC,WebCatPlus)

### ○ビデオ鑑賞

新・看護と図書館 下巻「看護研究と文献活用」(30分)

看護図書館協議会(監修),ポルケ(製作),紀伊国屋書店(発売)2001

#### 鑑賞のポイント6点

- 1 「文献活用」の意義は何か  
取り上げるテーマがどこまで解明され、今何が問題になっているかを確認する
- 2 「文献レビュー」とは何か  
研究テーマの文献を最新のものから過去へさかのぼり、これまでの研究動向と、今後の課題を明らかにする
- 3 研究計画を立てる前にどのような作業が必要か  
教科書、辞書、事典、入門書等でテーマの背景について調査し、事前学習を行う
- 4 論文などの発表から、二次資料に採録されるまでの時間差は何と呼ばれているか  
タイムラグ
- 5 引用文献・参考文献リストを作成する際には、どのような点に注意すべきか  
読者が文献に辿り着けるように正確に作成する
- 6 「看護研究に必要な3つの力」を挙げなさい

文献を探す力・文献を主体的に読む力・論文を書く力

#### ビデオ内の二次資料の例

医学中央雑誌・MEDLINEの京大データベースリストからの探し方を紹介

#### 情報の時間的流れ

#### 図書と学術雑誌・その中の論文との基本的な違い

学術雑誌：より新しい

図書：まとまった知識

状況により使い分けが重要

#### 研究活動と資料のサイクル

サイクルの中での二次資料の活用が重要

#### 卒業論文・卒業研究

大発見を求められているわけではなく、テーマの決定・他意見の検証・自分の意見の組み立てといったプロセスを身に着けることが重要

#### 論文の構成要素：論文をどう読むか、まず型から入る

資料として論文例を提示、各構成要素の解説

論文を読むコツ

目次を読み全体構成をまず確認する(目次がなければ見出しを拾い読み)

注や引用文献リストを見ることも参考になる

#### 引用文献・参考文献を示す必要性と意義

ちゃんと文献を読んだことの確認・先行研究者への敬意を示す・読者への文献提供

#### ■ まとめ

論文の形式を理解した上で探す、書く